

■若乃花幹士(初代) 第45代横綱。小兵ながら豪快な技で、栃若時代の隆盛を築く。悲運を乗り越え、角界スター「土俵の鬼」に。

わかのはなかんじ
共産党事件・1928＝ 青森県中津軽郡新和村で、リンゴ園を営む豪農花田宇一郎・きゑの長男に生まれる。本名花田勝治。

満州事変・・1931＝ 3歳： 10人兄弟の長男(姉が一人いた)で、何不自由なく育てられるが、

帝人疑獄事件1934＝ 6歳：室戸台風で生家のリンゴ園が全滅し破産、一家は親戚を頼って、北海道室蘭に移住。

日中戦争始・1937＝ 9歳： 家計を助けるべく、新聞配達をしたり、八百屋に奉公、

日米開戦・・1941＝13歳：
・・・・・1942＝14歳：国民学校を卒業。戦争で傷痍軍人になった父に代わって家計を支える。

年金+総武装 1944＝16歳：父が監督をしていた商船会社の港湾労働に従事、ふつうの大人の倍の重さを扱って、下半身が鍛えられるとともに、何度も生死の境をさまよう経験をする。

敗戦・・・・1945＝17歳：
新憲法公布・1946＝18歳：二所ノ関部屋が巡業で室蘭に訪れた際、飛び入り参加、プロの力士二人を投げ飛ばして、同部屋の前頭大ノ海の目に留まり、反対する父に、「3年たって関取にならなければ帰る」と約束して、強引に上京、大ノ海の内弟子として入門、杉並区の寺にあった部屋に入る。最初の四股名「若ノ花」を譲られ、初土俵。1年上の兄弟子のちの琴ヶ濱と仲良くなる一方、古株の力道山からは、ともに徹底的にしごかれ猛稽古。

新憲法施行・1947＝19歳：初めて番付に載った夏場所で負け越すも、(秋)序二段優勝、以後、入幕まで負け越さず、
極東裁判決・1948＝20歳：大ノ海が、近くの日大相撲部道場の一部を借りて「大ノ海道場」の看板を上げたのに従う。(夏)全勝で三段目優勝し、親友でライバルの琴ヶ濱を追い越して、幕下昇進。

三大事件・・1949＝21歳：3年たたずに、新十両となり、二所ノ関一門の創始者玉錦の明け荷が贈られた。(秋)十両優勝決定巴戦で、琴ヶ濱に敗れるも、昭和生まれ初の幕内力士になる。琴ヶ濱に非情になり切れなかったことを悔やむ。
朝鮮戦争始・1950＝22歳：(春)新入幕で敢闘賞、小さな身体(戦後の横綱では最軽量)で大技連発、大相撲新時代の幕開けとなる。

独立回復・・1951＝23歳：(春)2度目の敢闘賞。(夏)横綱羽黒山を破って、初の金星。栃錦との初対決にも勝利。場所後に結婚。
メデー事件・1952＝24歳：大ノ海が引退して、年寄芝田山を襲名し部屋(翌年、名跡を継承して花籠部屋)を創設、両国から遠い阿佐ヶ谷の貧乏小部屋の悲哀を味わいながら、部屋頭として一層稽古に励み、低迷から脱却、

TV放送始・・1953＝25歳：(初)史上初となる1場所3金星、異能力士として喝采を浴び、テレビ放送の開始で、大相撲人気が沸騰。

自衛隊発足・1954＝26歳：(初)新関脇で初の殊勲賞。(秋)2度目の殊勲賞も、以後2場所、栃錦に敗れて、大関見送り、

55年体制始・1955＝27歳：父が死去、室蘭の家族を引き取り、10人の生活が肩にかかる。(秋)10勝どまりも、初の技能賞。横綱千代の山と引き分に至る死闘(前代未聞の17分越え)に、千代の山の親方の出羽海理事長(元横綱常の花)が一目ぼれ、準優勝の松登と同時に、大関昇進。予想外で、旅行直前に知った。

国連加盟・・1956＝28歳：*大関3場所目で宿願の初優勝(12勝3敗)、阿佐ヶ谷への優勝パレードで、青梅街道が大衆衆に埋め尽くされる。次の場所直前、長男勝雄をちゃんこ鍋の大やけどで失い、悲嘆にくれるも、数珠を掛けて場所入り、鬼気迫る取り口で、初日から12連勝も、突然の高熱で無念の途中休場、「土俵の鬼」と呼ばれるに至る。

なべ底不況・1957＝29歳：自ら主演の映画「若ノ花物語 土俵の鬼」が大ヒット。(初)千代の山と水入りの死闘も敗れる。千代の山は、翌年引退するが、最後まで壁として立ちはだかった。以後、不調で、長男の一周忌に、「若乃花」と改名するものの、なおファンの期待に応えられなかったが、

インスタントラーメン・1958＝30歳：*(初)14日目に相星の栃鯨と激突、双方譲らず、2度の水入り、一番後の取り直しでようやく決着をつけ、2度目の優勝(13勝2敗)。満場一致で第45代横綱に推挙され、「栃若時代」は最高潮になる。一門には玉錦以来横綱がおらず対応に苦慮していたところ、時津風理事長(双葉山)が土俵入りを指導してくれたばかりか、三ツ揃えの化粧廻しまで貸してくれた。初めて開催された名古屋場所の千秋楽では、相星決戦を制し、横綱初優勝(13勝2敗)。(秋)初の連覇(14勝1敗)。初めて開催の九州場所場所前稽古中に左目負傷、出場が危ぶまれたが、栃鯨、千代の山2横綱休場の中で責任を果たす。

美智子妃・・1959＝31歳：(初)5度目の優勝(14勝1敗)。(春)北の洋と団体で軍配も、大物言いで、敗退。(夏)栃鯨と、史上初の横綱同士の決定戦で、史上初の大逆転優勝(14勝1敗)。(秋)1差で追う栃鯨退け、7度目優勝(14勝1敗)。

安保闘争・・1960＝32歳：(初)慢性蓄膿症と気管支炎で、横綱になって初めて休場。_(春)千秋楽史上初の全勝同士の横綱決戦で栃鯨破り、8度目優勝。この一戦に全てを出し尽したように、(夏)3日目、栃鯨が引退、「栃若時代」は終わる。宿敵不在のなか、(名古屋)貫録の9回目優勝(13勝2敗)、(秋)連覇で、栃鯨に並ぶV10を達成(13勝2敗)するが、矢が折れたように、(九州)腰椎捻挫で途中休場、「鬼の顔」も「仏の顔」になり、

タイタイ病始・1961＝33歳：(初)最後の優勝争いでも、大関柏戸に敗れ、脱落。(春)気管支炎で入院し、初の全休。(名古屋)左肩甲部関節炎のため途中休場。秋場所後には、柏戸と大鵬が同時に横綱に昇進、「柏鵬時代」開幕を実感、九州場所では、柏戸に4連敗、佐田の山に3連敗という様で、

全国総合計画1962＝34歳：(春)初日に栃光に敗れると、急性肝炎で途中休場。_(夏)前、笑顔の引退発表。(秋)後、断髪披露引退大相撲。二所ノ関部屋の呼び出し永勇が作った相撲甚句「若乃花一代記」が三郎の美声で唄われ、万来の拍手、相撲甚句が一般に知られるようになった。年寄二子山を襲名、花籠部屋から円満独立し、相撲部屋を新築。

東京リビヅ 1964＝36歳：以後、_厳しい稽古と独特の勝負哲学で、弟子を育成、
日中国交回復1972＝44歳：とくに厳しくあたってきた末弟のとくに厳しくあたってきた末弟の貴ノ花が大関に昇進、

石油ショック1973＝45歳：
角栄心脈辞任1974＝46歳：_【日本相撲協会】春日野(栃鯨)理事長が選出された際、師匠花籠と共に二所ノ関と袂を分かって支持、
ケアンブル事件1975＝47歳：とくに厳しくあたってきた末弟の貴ノ花が初優勝して感激、周囲の計らいで、優勝旗を手渡す。

田中角栄逮捕1976＝48歳：_【日本相撲協会】理事に当選するや、春日野理事長から重用されて、肝胆相照らす盟友になり、

JALハイジャック・1977＝49歳：2代若乃花が大関に昇進、

成田衝突・・1978＝50歳：続いて、横綱に昇進。

・・・・・1981＝53歳：女婿の横綱輪島の引退直前に、部屋を継がせるべく廃業した、花籠親方(大ノ海)が死去。

中曽根内閣・1982＝54歳：幕下の頃から糖尿病で治療メニューを認める異例の計らいまでして育てた隆の里が大関に昇進、

デイズニーマント 1983＝55歳：続いて横綱に昇進、さらに若嶋津が大関に昇進するなど、多くの個性豊かな力士を育てる。

ジャコブ機墜落1985＝57歳：この年実現した_両国新国技館の建設にも貢献、幹部の「栃若時代」と呼ばれたこともある。

リクルート事件・1988＝60歳：_5横綱・3大関をはじめ大関の関取を輩出、小部屋傍流から一大勢力を築き上げたことも評価され、春日野理事長の禅譲で、二所ノ関一門出身では初の理事長に就任。とくに、立合いの正常化に努めた。

ドイツ統一・・1990＝62歳：春日野(栃鯨)が、停年目前に、脳梗塞で逝去、記者会見は、大粒の涙を溢し、好敵手の死を惜しんだ。

ソ連崩壊・・1991＝63歳：紫綬褒章。

バブル崩壊・1992＝64歳：_甥で孫弟子の貴花田が初優勝、自らの手で天皇賜杯を渡すという劇的な場所を最後に、理事長を退任。

55年体制終・1993＝66歳：藤島と名跡交換し、部屋を譲渡して、【日本相撲協会】を停年退職、相撲博物館館長に就任するが、

・・・・・1996＝69歳：譲渡金およそ3億円の申告漏れを指摘されて、辞任。相撲界から去った。

・・・・・2000＝72歳：

小泉9.11テロ2001＝73歳：

・・・・・2005＝77歳：末弟貴ノ花に先立たれる。

民主党政権・2009＝81歳：

・・・・・2010＝82歳：腎細胞がんのため、_没した。

横綱の最高齢記録は初代梅ヶ谷の83歳3か月没で、あと9か月生できれば史上最高齢になった。

DVDマガジン「大相撲名力士風雲録 初代若乃花」、Wikipedia、